

年間第七主日

2019.2.24

ルカ 6・27-38

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高神父

「わたしの言葉を聞いているあなた方に言うておく」と主は語りかけておられます。このミサのひと時、普段の生活の対人関係の中でともすれば苛立ち、人を赦せない思いに苛まれているわたしたちの心を鎮め、み言葉に身も心も委ねたいと思います。

「あなた方の父が憐れみ深いように、あなた方も憐れみ深い者になりなさい」。主はこのように呼びかけておられます。全てのものの創造主である神、わたしたちの父である神の憐みのご計画によって、無から呼び出され、今あるようにされているわたしたちです。わたしたちのすべての日々、わたしたちの営みのすべては、父である神の憐みのもとにあるのです。

「あなた方の父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者になりなさい」という呼びかけは、わたしたちには到底無理だと思われることを要求するみ言葉ではありません。むしろ、このように呼びかけることによって、主はわたしたちをも、ご自分がその中に生きておられる御父の愛の懷に招き入れようとしておられるのです。

このような招きに応じて、普段の対人関係の中で凍てついてしまいがちなわたしたちの心がゆっくりと溶け出すのを待ちましょう。御父の憐みの懷の温もりがわたしたちの凍てつき、固まってしまった心を溶かしてゆくの待ちましょう。

主は言葉をもって、わたしたちを御父のもとに招いておられるだけではありません。

今日の聖書と典礼の表紙には、あのゲッセマニの園での主の最後のご様子を描いたステンドグラスが掲げられています。「友よ、あなたは口づけをもってわたしを渡すのか」。あのとき、主はこのようにユダに仰せになったのでした。その数刻前、主はユダの足を洗ってくださり、仲間の弟子たちと一緒に最後の晩餐の席に加えてくださったのです。そのユダが今や神殿の主衛兵の手引きをして、近づいてきたのです。サタンの力を知っておられる主は、最後の最後まで、ユダを友としてご自分のもとに引き止めようとされるのです。「父よ、彼らをお赦してください、自分たちが何をしているのか知らないのです」。このみ言葉は、ユダの離反を悲しみ赦す主の御心からの思いでもあるのです。

「あなたが御国にお出でになるときにこの私を思い出してください」と願った、主の傍らでともに十字架に懸けられた死刑囚に「今日あなたはわたしとともに楽園にいる」と言ってくださいなのです。

このようにして、わたしたちの主イエス・キリストは、父である神の御独り子であることを示されるのです。「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者になりなさい」と主は今日も、あの十字架の上から呼びかけておられます。主の十字架のもとで、神の憐れみを深く味わい、十字架の主に倣って、憐れみ深い者となる恵みを願いたいと思います。